

教育長定例記者会見 会見録

日時：平成30年5月21日 11時30分～

場所：教育委員室

発表項目

- ・伊勢志摩地域県立高等学校進学フェスタの開催
- ・県立松阪あゆみ特別支援学校の開校式
- ・SNSを活用した相談窓口「子どもLINE相談みえ」の実施状況

質疑事項

- ・発表項目について
- ・松阪あゆみ特別支援学校における給食への異物混入について

発表項目

（教育長）私の方から3点発表させていただきます。まず1つ目が、伊勢志摩地域の県立高校の進学フェスタについてです。「第2回伊勢志摩地域県立高等学校進学フェスタ」を平成30年6月9日、土曜日に伊勢市の「ハートプラザみその」を会場に開催をします。この進学フェスタは、児童・生徒が将来に夢と希望をもって進路選択できることにつながるように、伊勢志摩地域の県立高等学校の特色や魅力等の発信、個別進路相談を行います。参加対象は小学校5年生から中学校3年生までの児童・生徒ですが、小学校4年生以下の児童についても同伴で参加いただくことができます。昨年度ははじめての開催でしたが、約400人の児童・生徒・保護者・教育関係者などの参加がありました。参加者を対象としたアンケートでも好評を得ましたので、今年度も第2回として地域のPTA連合会や市町の教育委員会の協力を得て開催します。フェスタの内容を少し説明します。まず、日本ペップトーク普及協会専務理事である浦上大輔さんに「やる気を引き出す言葉の力 ペップトーク」と題した講演をいただきます。ペップトークとは、もともとアメリカでスポーツの指導者が選手を励ますために試合前などに行う短い激励のメッセージのことで、近年ではテレビドラマなどでも取り上げられ、子どもたちのやる気を引き出す話術として注目されています。その後、伊勢志摩地域の11校の生徒が主体となって、各校の魅力や特色についてステージ発表を行います。生徒のパフォーマンスや生徒へのインタビューを交えるなど各校が工夫を凝らし、学校の雰囲気が肌で感じられるものになると思います。ステージ発表の後はホワイエに設置した学校別のブースで個別進路相談を実施します。それと並行して学習成果の展示・体験等も行います。具体的には、高校生による英会話レッスンやドレスなどの実習作品の展示、企業と共同開発したアイスやスコーンなどの販売を予定しています。他にも各校で生徒と相談しながら企画検討中のものもあります。高校生が自分たちの学校を自分たちでアピールすることで、高校受検をひかえた中学生やその保護者だけでなく、小学生にも地域の高校の魅力を直接伝えることで、自分の将来に広い展望をもってもらうことを期待しています。

2つ目は、県立松阪あゆみ特別支援学校の開校式についてです。県立松阪あゆみ特別支援学校は、知的障がいのある児童生徒を対象とした特別支援学校で、一人ひとりに応じたきめ細かな教育を進めるとともに、地域で豊かに生きる子どもを育てることをめざして、この4月に開校しました。学校の開校式を6月2日土曜日10時から体育館で行います。小学部23名、中学部30名、高等部84名、計137名の子どもたちが、4月から新しい校舎で、元気に学習しています。開校式では、校歌を3番まで歌います。入学式の時は、練習する時間がほとんどなかったのが、1番しか歌えませんでした。開校式に向けて、音楽の時間に練習を重ねてきました。また、式の最後には、子どもたちが「手をつなごう」を歌います。のびのびした歌声が式場に響くことを楽しみにしています。式場の舞台や壁面の飾りは、小学部や中学部の子どもたちが、みんなで作ったものです。開校式に向けて、玉城わかば学園時代から制作を続けてきました。また、来賓の方々にお渡しするコサージュや記念品については、高等部の子どもたちが授業で作りました。こちらに一部持ってきましたが、一つひとつ丁寧に作られており、とても綺麗で心温まるものばかりです。これが胸に付ける、来賓の方に一つずつお渡しするコサージュになります。これ全部子どもたちの手作りですので、本当に温かいものになると思っています。式の司会進行は高等部の生徒会役員2名で行う予定です。人前で話すことにあまり慣れていないですが、精一杯努められるよう練習に励んでいると聞いています。また、学校では、地域の方々との交流ができるように、道路から直接出入りのできる「地域交流スペース」を設けています。開校式終了後には、その交流スペースで、子どもたちが入れたコーヒー、オレンジジュースなど飲み物を用意し、お越しいただいたお客様にお出しする予定です。子どもたちが活躍する場面がたくさんありますので、報道関係の皆様には、ぜひともお越しいただき、子どもたちの生き生きとした姿を取材いただければと思っております。取材の際には、名札を付けた教員が近くにおりますので、声をかけていただくようお願いいたします。

3つ目でございます。SNSを活用した相談窓口「子どもLINE相談みえ」を5月14日に開始しましたので、その状況について説明をさせていただきます。1週間の相談件数は、初日の14日、月曜日6件から始まり、記載のとおり、合計で63件ございました。相談内容については、友人関係・学校生活に関することが46件で、うち、いじめに関することが27件、それから、学業や進路に関すること、家庭に関すること、その他という内容でございます。いじめに関する相談は27件ありましたが、その内容としては、「友達に無視をされる」とか、「悪口を言われる」などの内容がありました。SNSでやりとりをする中で、「気持ちが落ち着いた」とか「友達に話しかけてみる」といった返信があったものもあります。また、翌日に継続した相談もございました。なお、関係機関と連携し、緊急に対応しなければならない内容の相談はありませんでした。

3をご覧ください。子どもたちが「子どもLINE相談みえ」を登録した件数は、1週間で137件でした。1週間後の5月28日、月曜日からは、高校1年生も対象として相談を受け付けてまいります。今後も、子どもの「聴いてほしい」という想いに寄り添い、子どもたちが安心して学校生活を送ることができるように、丁寧に対応してまいります。私からは以上です。

発表項目に関する質疑

(質) 最後に発表されたLINEの相談に関してですが、この63件というのは想定していただくだけの件数か、そのあたりはどうでしょうか。

(答) 長野とかを比べると、長野は初日にすごく多くて、ということなので、毎日の電話相談とかと比べると、63件というのは、判断基準のない中、失礼なんですけれども、こういう様な内容かなというには思っています。少なくともなく、多くもなくという感じではございました。

(質) 実際にこの内容の内訳とか、そのあたりをみられて教育長として感想というか、どのように受け止めていらっしゃるでしょうか。

(答) やっぱりSNSというのは子どもたちにLINEとか普及しておりますので、これまではほんとに何も吐露できなかったことが、ちょっと書けるというようなことで、実際に27件いじめでしたけども、ハードルが下がったかな、こういう方法を用いて良かったかなという感覚は自分の中で持ちました。ただ、文字だけですので、声を聞いたり、面と向かって話を聞いたりということではないので、文字だけっていうのが若干どうなんだろう、どうなんだろうっていうか、もう少しほんとは聞きたいっていうような内容もあるのかなということちょっと思ったところです。それが率直な感想です。

(質) 昨年っていうのは、電話だったり、相談っていうのは何件ぐらいあったんですか。

(答 研修企画・支援課) 電話相談でいじめに関する相談は125件ありましたが、中高生からはそのうちの30です。

(質) 残りは小学生ってことですか。

(答 研修企画・支援課) 保護者だったりとか。

(質) 125件中、中高生が？

(答 研修企画・支援課) 中高生からの相談が30件。

(質) これって年度中？年度？

(答 研修企画・支援課) 平成29年度です。

(質) 平成29年度電話相談？

(答 研修企画・支援課) はい、そうです。

(質) 長野のSNS相談の初日って何件やったんですか。

(答) トータルでは2週間で1,579件だったんですけど、初日っていうのは、きちんと後で報告をさせていただきます。

(質) 5月28日からの高校1年生には何万枚配るんですか。6月11日に中学2年生には何枚配るんですか。

(答) 数字のことなのでもう一回きちっと報告させていただきます。

(質) 1回目のとき、なんか、ちゃんと書いてたんとちゃいましたか。

(質) 29年度中高生からは30件ほどということでしたけど、中学生では何件ぐらいとかわかりますか。

(答 研修企画・支援課) 中学生がちょっと。

(質) 分類してない？

(答 研修企画・支援課) はい。すみません。

(質) 63件は同じ子がやってる形跡があるとかはわかりますか。

(答 研修企画・支援課) 同じ子が日を変えて相談してきたものも1件として数えてあります。

(質) 相談してきた人数でいうと何人ぐらいかっているのはわかるんですか。

(答 研修企画・支援課) 重なっているものは抜いてということですね。

(質) そうです。

(答 研修企画・支援課) すいません。

(質) この27件のいじめですけれども、相談を受けて早急に対応したとか、学校で、現場で対応したというケースはあるのでしょうか。

(答 研修企画・支援課) まだ、現場、学校等っていうのはございません。ただ、少し大丈夫かなということで、相談員から何度も繰り返し返信を送って、話をしていく中で、相談者の方も、今日はありがとうございましたということで、今回27件については終了している。

(質) 学校に報告はしているということ？

(答 研修企画・支援課) 学校はしてないです。

(質) 相談員のケアする言葉って具体的にどんな言葉なんですか。事例を何件か。どんなやり取りがあったか。子どもがどんな相談をして、相談員がどんな返答をして、最終的にありがとうってなったか。

(答 研修企画・支援課) 相談員さんがどのような言葉をかけたかということですよ。

(質) そうそう。ケアする言葉。

(答) 1件1件についてはほんとに今まだ少ない数ですので、ひょっとしたら記事にかかれたりすると。

(質) 匿名だからええんちゃいます？

(答) 匿名っていうか、まあ、自分が言ったことがこんなことかなって思われるのもやっぱり子どもにとっては。

(質) じゃあ抽象的なやつではいかがでしょうか。

(答) なので、悪口を言われたっていったときに、どんな返答をしてっていう、そんなような感じで答えて。

(答 研修企画・支援課) きちんとした言葉をそのまま答えた方が良いと思うので。

(答) いや、あの、抽象的でいいですよ。すみません。なんか抽象的なのを。

(答 研修企画・支援課) 悪口を言われたっていうことに対して、嫌な気持ちだったねということで、そのときあなたはどういう気持ちだった？とか、そのときあなたはもうしていたの？っていうふうなこと、あなたはこれからどうしたい？っていうふうなことを聞いています。もし、相談者のほうから私は仲直りがしたいというような具体的なことが出てきた場合にはそれに対してまた答えるんですが、どうしたいの？と聞いたときに、とまってしまった場合には、もし良かったら私からこういうふうな方法があるんだけど、提案しようか？っていうことで具体的にすると、それならやってみますという返事があったのもあったし、それに対して分かりました。でもそれは難しいかも。っていうような返事があったのもありました。

(質) それは例えば友達に話しかけようとかそんなことですね。

(答 研修企画・支援課) そうですね。はい。

(質) これあの、悪口を言われるとかってというのはSNSを通して言われるパターンもあるんですか。

(答 研修企画・支援課) 今回挙がってきているのは、学校で、ってことです。

(質) 学校の中だけってということですか。

(答 研修企画・支援課) SNSでってというのは、はい。

(質) これ1万7,000人に配って、登録件数137件というのは教育長はどう見てみえるんですか。

(答) 同じことを私も思ったんですけど、まだ中学校1年生で、スマホの所有率であるとか、そういうことを考えたりすると、137件が多いか少ないかは分かりませんが、一番最初のことなので、自然な数字かなと思っています。報道とかでもいろいろ流してもらいましたし、したうえで137なので、自然のこの数字かなというふうに思っております。

(質) 中1のスマホの所有率って教育委員会としてはお持ちですか。

(答 生徒指導課) 学年別には数字を持っておりません。申し訳ありません。中学生で7割です。小学校で5割です。小学校は4、5、6年生の調査でした。

(質) スマホですね？携帯じゃなくて。

(答 生徒指導課) スマートフォンプラス携帯を含めての調査でした。スマートフォンに限定しては調査してません。

(質) 中学生7割という実数はどうですか。約何万人？

(答 生徒指導課) 母数は小中高合わせて12,000人調査でしたので、抽出でしたので実の数までは分かりかねます。

(質) これは教育委員会の調査ですか。

(答 生徒指導課) はい。

(質) 今後の高校1年、中学2年生と増えていくにあたって、相談員の数とかって変えていったり、例えば増やしたりするんですか。

(答) 相談員の数は今のままです。増えていく数の数に対応してもらいます。

(質) 今何人でしたっけ。

(答 研修企画・支援課) 2人から3人で対応してもらっています。

(質) 特にこの最初の1週間ぐらいで、この人数でトラブルはなく実施したという形がいいですか。

(答 研修企画・支援課) トラブルはなかったですが、時間外のアクセスがあって、そのとき相談中の子以外は自動返信でまた少し待ってねという形になりましたが、その後つながった相談、つながらなかった相談があって、実際混雑のためにつながらなかった相談というのは10件ありました。

(質) その10件はこの63件に含まれてるんですか。

(答 研修企画・支援課) 入ってないです。63件は相談ができた数。

(質) そうすると、中学1年生から73件の相談があったが、うち答えられたのは63件という認識でいいですか。

(答 研修企画・支援課) そうです。

(質) そのあたりはもう混雑は解消がしようがないということですか。

(答 研修企画・支援課) 1人の相談時間がいろいろですので、長い相談もありますし、30分ぐらいで終わる相談もありますので、4時間の間でどれぐらい相談が終わって次に進むかというその辺にもよるのかなとも思います。

(質) 相談の多い時間帯は。

(答 研修企画・支援課) 相談の多い時間帯は7時台。それから9時前ですね。すみません。結構8時台後半が多かったです。

(質) 7時から8時にかけてが多かったということですね。

(答 研修企画・支援課) はい。

(質) 午後ですよ。

(答 研修企画・支援課) そうですね。17時から21時までなので、19時台、20時台です。

(質) 相談員さん2、3人で、そのシステム会社さんとのやり取りの中で、これまでの成果と今後の課題みたいなのはどんなふうにとまとめられていますか。やり取りとしてうまいこといってるねとか。特にそういうやり取りはしてない？会社としてはうまいこといってる、みたいなこととか。

(答 研修企画・支援課) 会社の方のうまくいってるかどうかというのは聞いていませんが、63件の相談がありまして、その中で相談終了時に向かって子どもたちが、これはあくまでも文字だけなのでこちらの感想になってしまうかもしれませんが、ありがとうございましたとか、相談してよかったとかそういう少し前向きな言葉が子どもたちから出てきていますので、子どもたちが相談する前よりは前向きな、積極的な気持ちになれたのかなということをおもっています。

(質) よくあるアンケートで、ほぼ満足しているという、そういう数字を得意に出してくるけど、そういう数字はないの？63件のうち、ありがたいが何件あるとかその辺の数字はないの？

(答 研修企画・支援課) ありがたいとか、また相談しますとか、気持ちが楽になりましたとかの言葉でカウントしたとき、63件中40件はそういった気持ちで。

(質) なるほど。満足したような回答があったということ。

(答 研修企画・支援課) 満足というか、相談を終えられたのかなというふうに思っています。

(質) 当初の想定だと1日30件を受けられる体制を整えてるということだったかと思うんですけど、この中1ですでに1日15件、20件近くきてるわけですよ。ここから全学年高校も含めてやってくと、今でも10件ぐらい対応できないのがあったということなんですけど、体制的には当初の想定で十分ですかね。

(答 研修企画・支援課) 5日間で10件対応できなかったということです。

(質) 1学年だけでもそれがあったわけですよ。その5日間で10件対応できないという。当初、発表のときは1日30件対応ができる体制を整えると言う想定だったかと思うんですけど、このままのペースで、全学年同じペースじゃないかもしれないですけど、全学年増えたときに1日30件の想定というのは十分そうですか。

(答) ほんとには人数もたくさんして、それこそ24時間とか最初は考えたんですけども、いろんな意味で制約があるという、限界なので、1週間これでやって、担当たちとも話し

しているんですけども、もう少し効率的、効果的にやれることがあれば絶対やらなければいけないしということで、今の中で予算を増やすということも無理ですので、なるべく子どもたちが良かったなというふうになるのに工夫をしていきたいとは思いますが、そういう意味ではどんどんどんどん積み重なっていくと、実際、相談のメッセージを送っても、また明日ね、という回数が増えるということは現実的にはそうなるというふうに思います。

(質) 学校には、いじめの相談を報告していないのですか。

(答) 今の段階では、学校に報告をすぐさまして、対応をしなければならないという内容のものまではいっていません。

(質) 相談をした人が、学校には言わないでほしいなどの求めに応じて学校に報告をしていないのですか。

(答) LINEの相談ですので、今日こんなことがあった等、言葉のやりとりであるため、1件1件をきちんと見ていて、「これは」というものがあるまではやらないと。例えばLINEの中で、「これは言わない方がいいですか」というやり取りはなしで、やり取りを始めているので、いざという時はという感じです。幸いにも、そこまでのものはいっていません。63件のうち40件は、終わったわけではないが、「気持ちが落ち着いた」「友達に話しかけてみます」などの形で整理ができた子ども達が多いので、今は報告に至る状況にはっていません。

(質) この27件というのは、毎年、報告いただいているいじめの報告にはカウントはされていますか。

(答) 学校でのカウントなので、学校でどうカウントしているか。

(答 生徒指導課) 学校での認知について、LINEの相談そのものと同一の案件を先生方が認知しているかは。

(質) 同じものが報告される場合もあり、このLINEで終わっている場合もあるのですか。

(答) 理論的には、全て内数になります。自分が嫌な思いをしたのは、全部いじめにカウントすることになっているので。学校側が数を報告するときに、1件1件について入っているかどうかは確認ができないのは事実です。そういう意味で、学校ではひよっとしたら把握してもらえないが、LINEでは言ってみようかと思ってくれる子ども達がいれば、この事業をしてよかったと思う。

(質) 教育長が先ほど、文章なのでもう少し聞いてみたいなど言われたが、その件については。

(答) これから契約会社を含めて、本当の気持ちが吐露できるようになるには、どのようにしていけば良いのかを検討し、改善を加えていかなければいけないと思っています。

(質) そもそも、いじめ以外も相談してもいいのですか。

(答) 件数で学業やその他もあるが、長野県の場合もそうであるが、子ども達はどこかにモノを言いたいため受け止める形をしています。将来的には、いじめに繋がる可能性もあるので、来るものについては全て対応しています。いじめ以外も対応しています。

その他の項目に関する質疑

○松阪あゆみ特別支援学校における給食への異物混入について

(質) 3回異物混入があったが、その後の対応についてどうなっていますか。

(答) 先ず、信頼して通学している子ども達や保護者の皆様に、ご迷惑ご心配をおかけしているのは申し訳ないと思っています。3回目金属片があったということで、新たな改善計画が提出されたので、それを確認したうえで、施設や設備についてももう一度点検を行いました。3回目ですので、あらゆる箇所を入念に点検を行いました。5月9日から調理員1人を増員し、指導期間の延長をして体制強化をしました。今後については、学校の栄養職員を臨時配置し、学校、県教委、保健所及び調理委託業者で改善検証会議を定期的を開催し、異物混入が絶対に起こらないようにリスク管理に向けて、確実に実行されているかをしていきたいと考えています。

(質) 調理業者は、今回の件があったからといって変えないのですか。

(答) 契約書があり、契約条項を確認したうえで、どうしていくべきか丁寧にしていかなければいけないが、現時点で変更は考えていません。とにかく、子ども達に安全で安心できる給食を出すということに注力しています。

(質) 業者は、金属片について何と言っているのか。

(答) どこから混入したのか等を精査している最中であり、ご理解をいただきたい。

(質) 前回は、業者が悪いとの発表であったが。

(答) 給食が始まっているので、業者が適切に点検をして異物が絶対に混入しないように準備をしなければいけないのが事実で、そういう意味ではそこを怠ったのはあります。手袋は何処から、金属片は何処からなどを一個一個を点検し、きちんと精査をしたうえで、業者と話をしなければならないので、今は調査をしている最中ですので、その点については慎重に検討していかなければいけないと考えています。

(質) 改善検証会議に、参加しているメンバーは。

(答) 学校、県教委、保健所及び調理委託業者で構成しようとしていますが、まだ仮称であります定期的に開催していきたいと思えます。

(質) 月に1回程度の開催ですか。

(答) イメージ的にはその程度かと思えます。

(質) 保健所は、松阪保健所でよろしいですか。

(答) はい。

(質) 改善検証会議に、県教委が入っている理由は。

(答) 県教委には保健体育課があり、指導していく立場にあります。大事なことは子ども達に安全安心な給食の提供が必要であり、県教委が入る、入らないではなく、皆で考えていくためにも県教委も入らせていただきます。金属片の混入がどういうところからかをきちんと調査している最中であり、ご理解をいただきたいと思えます。結果として、報告しなければいけないものがあれば、報告をさせていただきたいと考えています。

(以上) 12時05分 終了